



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(6)

【概要】

令和 5 年 11 月 17 日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて、理工学部 長田 聡史 教授が、理工学科生命化学コースの学部生や先進健康科学研究科(理工系)の大学院生らと共に、本年度最後の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請で、子どもたちの理科への興味を通じて就学意欲を喚起する目的で実施されています。

令和 5 年度第 6 回の理科実験教室は 11 月 17 日(金)、理工学部化学部門の長田聡史教授と共に、大学院生および理工学科の学部生が「炎の色はどんな色？」をテーマに炎色反応の実験とアロマキャンドル作りを行いました。

エタノールを染み込ませたコットンにヨウ化カリウム、塩化リチウム、塩化ストロンチウム、塩化銅、水酸化バリウムなどの金属塩をのせて着火し、炎がそれぞれの元素に応じて色付く様子を観察しました。照明を落とした教室で、子どもたちは炎をじっくり観察し、見た色を記録しました。

続いて炎にちなんだ実験としてアロマキャンドルを作るワークを行いました。子どもたちは市販のろうを湯煎で溶かした後、好みの色にクレヨンで着色して、さらにアロマオイルやバニリンを含ませました。芯を入れた型に溶けたろうを静かに注ぎ込んでオリジナルキャンドル作りに取り組みました。みんな熱心に取り組んだため教室での時間が足りないほどでした。

今回が今年度最後の理科実験教室であり、教育支援センターの計らいで実験後に参加者全員の記念写真を撮っていただきました。



「理科実験教室」の様子